

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院
(旧 名古屋第二赤十字病院)で
診療を受けられる／受けられた患者さんへ
～臨床研究に関する情報公開について～

当院では、下記の研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、カルテ情報等の診療情報を研究目的に利用されることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象とはしませんので、下記の問い合わせ先にご連絡ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。また、研究の詳細についてお知りになりたい場合も、下記の問い合わせ先にご連絡下さい。なお、研究の詳細については、他の研究対象者等の第三者の個人情報や知的財産の保護に支障がない範囲内での開示となります。

研究課題名	急性尿閉患者に対するドレナージ後血尿の原因探索		
研究実施期間	院長が研究実施を許可した日 ～ (西暦) 2024年 3月 31日		
研究実施診療科	泌尿器科		
研究の倫理審査等	治験・臨床研究審査委員会審査日	2023年 9月 21日	
	院長が研究実施を許可した日	2023年 9月 22日	
対象となる方	(西暦) 2000年1月1日 ～ (西暦) 2023年12月31日に、当院泌尿器科において、急性尿閉と診断され、経尿道的ドレナージを受けられた方		
主たる研究実施機関	旭川医科大学病院臨床研究支援センター (研究代表者氏名：松本 成史)		
共同研究機関	別紙【研究組織】参照		
当院の研究責任者	所属	泌尿器科	氏名 水野秀紀
研究の意義・目的	膀胱内に尿が充満しているにもかかわらず、急に排尿がまったく不可能になった状態のことを急性尿閉と言います。急性尿閉の治療のために、尿道カテーテル留置や導尿によるドレナージが必要になりますが、この際に肉眼的血尿を呈する患者さんがおられます。急性尿閉に対するドレナージを受けた患者さんの状況を調査します。		
研究の方法	対象となる方の臨床情報について、診療録を振り返って収集し、集められた情報を研究代表者が解析します。		
研究に使用するもの	診療録から得られる情報を、個人を直ちに特定できるような情報とは切り離れた状態で使用します。(性別、年齢、既往歴、治療歴、採血、検尿・尿沈渣、経尿道的にドレナージを受けた際のドレナージ尿量および肉眼的血尿の有無、その後の後経過の診療記録、等)		
診療情報等の他機関への提供方法	必要なデータを、研究担当者がパスワードをかけたファイルに入れて、研究代表者に電子的に送ります。なお、データは、氏名や住所等といった個人を直ちに特定できるような情報とは切り離され、セキュリティーのかかったデータベース上で管理されます。		

結果の公表	関連学会や学術論文等で発表予定です。対象者の氏名等の、直ちに個人を特定できる情報を公表することはありません。
個人情報の保護	対象者の方の情報の使用に際しては、氏名や住所等といった個人を直ちに特定できるような情報とは切り離し、対象者個人とは無関係の番号を付けた上で、研究責任者の責任の下、廃棄するまで厳重に保管・管理します。
研究の資金源	本研究は特に資金を必要とせず、外部からの資金提供もありません。
利益相反	本研究の実施にあたり、研究の透明性や公正性を損なうような利益相反はありません。
情報等の二次利用	本研究で得られた情報は、本研究の目的以外には使用しません。
問い合わせ先	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 泌尿器科 水野 秀紀 電話 052-832-1121 (代表)

《別紙》

【研究組織】

1. 研究代表者

国立大学法人 旭川医科大学 病院臨床研究支援センター・教授 松本 成史

2. 共同機関・研究者

所 属	責 任 者
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 泌尿器科	水野秀紀